

セキュリティチェック

志村 良知

今、セキュリティチェックと言えば、公共施設などの入り口での体温測定を思い浮かべる。

しかし、普通セキュリティチェックと言えば、ハイジャック防止のための所持品検査のことだろう。飛行機を何度か利用していると意に反して（当たり前だ）、引っかかることがある。多いのは小銭、携帯電話、キーホルダーなど持っていることを忘れていた金属類であるが、意外なものもヒットする。

駐在員時代、アテンドしていた日本からのVIPが金属探知ゲートでピンポンと鳴らした。もちろん旅慣れた人なので、思いつく金属類は外していた。生意気そうな若い係員は無表情・無言で、戻ってもう一度くぐれと犬に命令するような仕草。逆らえないVIPはそれに従うが当然鳴る、さらにもう一度「おいおい、その人を弄り回さないでくれ後で割り食うのは俺だぜ」。結局ボディタッチになり、高級靴の底の鋏が原因であることが分かったが、案の定その後、ご本尊すこぶる不機嫌で参った。

ゲートでピンポンと鳴ることがどういふことかレクチャーされてない団体というのに遭ったこともある、くぐる人が次々にピンポンと大当たりになって大喜び、嬉々として手を取り合い口ビーに散らばってしまう。係員が右往左往する。

手荷物検査では、帰任の時シャルル・ドゴール空港で複数の力メラと付属品、時計、オクさんの雑多な装身具など大量の金属類を詰めたカバンが咎められ、個室に連行されて、武装した兵隊監視のもとで調べられたという経験がある。

手荷物の大物の思い出。同僚と、あそこはチェックが甘いよな、と噂していたスイスの某空港。中年の職人風の人の大きな布力バンがX線装置に入った瞬間、やる気がなさそうな係員たちが色めき立った。開けてみると入っていたのは使い込んだ大きな電動カンナ。チエーンソウとは違って機内で凶器にはならないからと愛器を持ち込もうとしたのであろう。これには係員も並んでいた検査待ち乗客たちも大爆笑だった。